

秋冷の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員の皆様には、健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。また過日台風15号の甚大な被害に見舞われた被災地の皆様には、心よりのお見舞いと、一日も早い復興及び復旧を祈念申し上げます次第です。

9月の県内の自衛隊関連行事は23日の串間・高畑山の観月会のみで、私は当初より欠席の予定でしたが、折悪しく台風17号の来襲で果たして予定通り無事開催できたのかは不明です。

さて昨今の日韓関係の悪化を受けて、政治は当然のこと乍ら経済にも悪影響を及ぼしている事実は皆様ご存じの通りですが、国益を護ると云う事は国民にも一様の覚悟が求められます。

目先の細事に振り回されず、安易な妥協などを選択せずに大局観を以て過去の百年、これからの百年を見据えて判断せねば、将来に禍根を残すことにもなりかねません。

そんな中、小川先生からタイムリーなメルマガが届きましたので下記に転載させていただきます。

・南北統一の先の気になる火種

ギクシャクする日韓関係や自国内の政権基盤を揺るがす問題が多発する中、**韓国の文在寅政権の「南北統一思考」**が先鋭化している印象があります。

文在寅大統領は日本統治からの解放を祝う8月15日の「光復節」の式典で、「光復100周年を迎える**2045年**までには、平和と統一を実現した『ワン・코리아』として世界の中でそびえ立てるよう、(自分の任期中の2022年までに)その**基盤をしっかりと整える**事を約束する」とぶち上げました。

そして文在寅大統領の側近でブレーンの立場にある文正仁特別補佐官は9月8日、ロシアの国営**タス通信**に対して、その「統一へ向けてのロードマップ」にあたる構想を次のように示しました。

「韓国と北朝鮮が**10～15年の間に**欧州連合(EU)のような**経済連合**を組むことは可能」

確かに韓国と北朝鮮は昨年9月の**南北首脳会談**でも「**2032年のオリンピックの共同開催**に向けて立候補する」と表明しています。これは2032年までに「安全な国家」に生まれ変わった北朝鮮と、連邦とまでは行かないにせよ共存共栄する方向が生まれている可能性を示唆しています。

この方向は、韓国、北朝鮮との懸案に決着をつけ、良好な関係が実現するのであれば、日本にとっても望ましい道筋ではあります。しかし、文在寅大統領がいう「ワン・コリア」の実現には大きな困難が伴うだろうというのが私の見方です。

東西ドイツの統一は、互いに戦うこともなく、米ソ冷戦の中で分断されたということもあり、両国民から歓迎されましたが、外国人の目ではわからない**問題がひそんでいた**のです。

統一直前、東西ドイツを歩く機会があったのですが、**東ドイツの人々の多くが社会主義体制の中で勤労意欲などの点で「ドイツ人らしさ」を失っており、西ドイツ人から「こいつらはドイツ人じゃなくなった」とまで蔑まれているのに驚かされました。**

この問題は当然、**地域的な経済格差**としても影を落とすことになります。東ドイツ人の失業率は高まり、そこに西ドイツに多い外国人労働者の問題がのしかかってきます。仕事を奪われたという被害者意識もあって、移民排斥などを前面に出したネオナチの台頭につながり、深刻な社会問題となっています。

ベトナムにも似たような問題があります。南ベトナム政府を倒し米国を追い出した**北ベトナム側**が、解放された南ベトナム側をあたかも米国に代わる**支配者のような顔で統治**しているのです。

南ベトナム側では、**3層の支配階級**が一般国民の上に存在しています。一番上は、北ベトナムから来ているベトナム共産党の指導部、二番目がベトナム共産党の**南ベトナム出身の幹部**、そして三番目が**南ベトナム解放民族戦線(ベトコン)**として命がけで戦った南ベトナム人です。それぞれの**勢力の力関係**によって統治の構造も決まるということですね。

そこで**南北朝鮮**ですが、北朝鮮が韓国を支配するとか、韓国が北朝鮮を飲み込むという一般論では済まない問題を抱えています。

それは**朝鮮戦争**で同じ民族が殺し合ったという記憶が生きているからです。南北統一を喜ぶ人々がいる一方、このさい**親兄弟の仇**をとってやろうという人々もあまた存在しています。韓国側には**拉致被害者の家族**が何万人もいます。いざ統一となっても、いつ殺し合いが始まるかわかつ

たものではありません。くすぶり続ける火種です。下手をすると、再び南北分断の悲劇が待っているかもしれないのです。

ドイツやベトナムと比べ、朝鮮半島の統一の先に見えるのはバラ色の景色ではなく、もしかしたら「地獄」かもしれないことも、隣国日本としては視野に収めておく必要があると思います。

(小川和久)

以上のように韓国や北朝鮮、そして中国やロシア等を隣国に持つ日本は建国以来、大陸や半島とのお付き合いに悩まされたり、恩恵を被って来たりした2600有余年の歴史があり、従い令和元年現在我々の目の前の現実なども、歴史を紐解けば120年前周辺国で生起した事のデジャブのようで、日清・日露戦争は正にこうして始まったのかと漸く気付かされます。

当時とは情報量や国民の知識、そして何よりも「憲法9条」が有り日本は戦争など起こせるはずありませんが、9/24の国連総会に於けるトランプ大統領の演説によれば「自由を欲するなら祖国に誇りを持て。民主主義を欲するなら主権を手放すな。平和を欲するなら祖国を愛せ」と各国に檄を飛ばし、「未来はグローバリストではなく、愛国者のためにある」と訴えたそうです。

「アメリカンファースト」で当選したトランプ大統領でしたが、この発言を聞く限りにおいては就任3年間で大きく成長したなと感じるのは私一人ではないものと考えます(笑)。しかし戦後米国GHQによる「WGIP洗脳教育」を受けた現在の日本に「祖国に誇りを持ち、主権を手放さず、祖国を愛する」一体何人の「愛国者」が存在するのか、全く想像すらできません(^_^;)。

暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったもので、台風一過爽やかな秋風が宮崎にも舞い込みましたが、風邪などお召しなされぬよう呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

令和元年 10 月 1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長

小 倉 和 彦